

# 第16回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館 研究活動発表会のお知らせ

(公財)広島市みどり生きもの協会の安佐動物公園、植物公園、森林公園こんちゅう館は、日ごろの調査研究活動を広く市民の皆様にご覧いただくため、合同で発表会を開催します。

最新の情報を担当者が、実例を交えて発表しますので、ぜひご参加ください。参加自由。

1 日 時 令和2年2月10日(月)14:00~16:00

2 会 場 広島市役所 2階講堂(広島市中区国泰寺町一丁目6番34号)

※駐車場に限りがあります。公共交通機関を利用してお越しください。

3 発表内容

(1)新規チョウ類の導入について

発表者: 広島市森林公園こんちゅう館 技師 藤井 智展

昆虫館のメイン施設であるパピヨンドームでは、沖縄産を中心に、美しく、ゆったりと飛ぶチョウ約10種500頭が1年中放し飼いにされ、それを手に触れるような距離で間近に観察することができます。

市民からは、もっといろいろなチョウを目の当たりにして楽しみたいという声が多くあることから、展示効果の高い新しい種類の導入に努めています。

現在は、見た目が美しく、周年展示が可能で、行動も面白いということから、「タテハモドキ」、「アオタテハモドキ」、「リュウキュウムラサキ」の3種類の導入を目指しています。

3種は、いずれもタテハチョウ科に属するチョウで沖縄に分布しています。前2種は、翅にギョッとさせる派手な目玉の模様があり、アオタテハモドキは青、リュウキュウムラサキは紫に輝く翅をもつ美しいチョウたちです。また、3種とも縄張り意識が強く、パトロール行動や、チョウ同士のケンカといった行動の観察も期待できます。ここ数年導入を試みましたが、産卵をせず、累代ができないままでした。昨年度から今年度にかけて閉館中のパピヨンドームの植栽変更を行い、これらのチョウが生活しやすい環境を作りました。また、採卵方法、成虫の維持方法を工夫し、3代までの累代飼育に成功しました。

今回は、この3種類について、飼育方法や採卵方法を工夫し成功した累代飼育の手法と、展示に向けての失敗や課題及び、この取り組みから期待できることを発表します。



タテハモドキ



アオタテハモドキ



リュウキュウムラサキ

## (2) 特別企画展「種子の不思議展」について

発表者: 広島市植物公園 管理課 技師 泉川 康博

広島市植物公園の展示資料館では、毎年テーマを変えて自主企画の長期展示を開催しています。平成31年度は種子をテーマとして、特別企画展「種子の不思議展」を令和元年10月19日(土)～12月24日(火)まで開催しました。植物公園の歴代スタッフが長年にわたって収集・保存してきた国内外の貴重な種子に加えて、外部協力者からも珍しい種子の提供をいただき、計160種類の展示となりました。

種子は、美しい花や珍奇植物などと比べると地味で、ただ並べて陳列するだけでは魅力が伝わりにくい題材です。そこで関連イベントとして、種子散布の分野で第一人者である中西弘樹先生(長崎大学名誉教授、漂着物学会会長)による講演会や、瀬戸内虫草団の協力のもと「飛ん種・落ちタネ・ひろったね」と題したワークショップなど、参加者が種子に興味を持つきっかけとなるようなイベントを企画しました。

一方、展示会場では、漂着したココヤシの実を大画面の浜辺の画像と組み合わせてビジュアルに訴えるイメージ展示や、グライダーのような形のアルソミトラの種子を飛ばす、オナモミの実をダーツの的に投げる、肉眼では見づらい微細な種子を顕微鏡で観察する、など体験型の展示を取り入れました。

今回の発表では、ともすれば学術的な内容に終始しがちな企画展示を、子供から大人まで飽きずに楽しみながら学べる展示内容に仕上げるための試行錯誤や工夫の数々についてご紹介します。



漂着したココヤシの実を使った  
イメージ展示



200mm

0.5mm

世界一大きな種子 フタゴヤシ(左)  
微細な種子 アイランドポピー(右)



オナモミの実を使った  
ダーツゲーム

## (3) 夜行性動物展示における照明器具の検討 ～LEDと光の色が動物展示に与える影響～

発表者: 広島市安佐動物公園 飼育・展示課 技師 安西 航

安佐動物公園のはちゅうるい館1階では、夜行性の動物を屋内飼育しています。赤い照明で暗い夜を演出することで館内の昼夜を逆転させ、開園時間中に夜の動物たちが活動する姿を展示しています。

近年、LED照明の増産に伴って、白熱電球や蛍光灯の生産量が縮小しています。当園の夜行性動物展示で使用していた赤色の白熱電球も生産が終了してしまい、代替品の模索が急務となりました。当然、省エネであるLEDもその候補です。しかし、LEDの光が動物の健康状態に与えるリスクについては、詳しくわかっていません。さらに、個々人の色覚によってLEDの発する赤色光が見えない場合もあり、色覚バリアフリーの観点からもLEDの導入は慎重に検討する必要があります。とは言え、何もせず待っていては流通する全ての照明器具がLEDになってしまうかもしれません。

そこで今回は、赤色・青色のLED照明をスローロリスの展示場に試験的に導入し、その影響を調べてみることにしました。LED照明と色の違いが、スローロリスの行動にどのような変化をもたらすのか? どの照明を使うと、見えやすい展示になるのか? 動物にも市民にも優しい展示をつくるために、検討してきた結果をご紹介します。



赤色照明による展示の様子



今回行動を観察したスローロリス